2. 1年次の実践と2年次の研究計画の概要

本研究は，「情報活用能力の育成に関する研究」として昭和63年2月から2年計画によりスタートした。第1年次は，情報活用能力に関する理論研究と情報活用に関する基礎調査を行い，第2年次の研究に向けて評定尺度の作成と実践モデルの作成並びにその試行・検証を行った。

第2年次は，第1年次の研究成果を基に，評定尺度Ⅰ・Ⅱの補正，教育実践内容の焦点化，実践に即した育成プロセスの作成等を行うとともに，研究協力校における実践的研究を通して情報活用能力の育成の在り方を追究することにした。

図2に，その概要を示す。

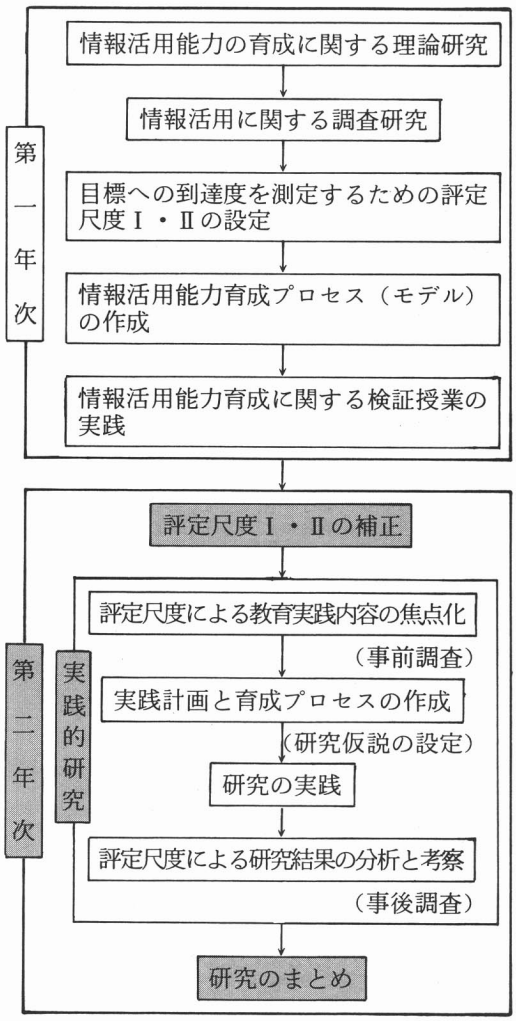

図2　研究計画の概要

3. 評定尺度Ⅰ・Ⅱの補正

⑴　目標要素の概念規定と文言の補説

評定尺度Ⅰは図4に示すように，児童生徒の情報活用能力が育成された状態を教師の観察によって評価するために作成されたものであり，校種に関係なく利用できるようになっている。実践的に利用するに当たっては，目標要素を児童生徒の発達段階に応じて更に具体化する必要がでてきた。このため，実践研究に先立って12の要素のキーワードともなっている「情報」「情報の重要性」「情報モラル」「情報手段及び特徴」等の文言の概念を規定するとともに，内容の補説を行った。

⑵　「情報」に対するイメージ調査

図5は評定尺度Ⅰの状態像を基に作成した評定尺度Ⅱ（児童生徒の自己評価表）の一例で，発達段階（小・中・高校）を考慮して作成した。

これらは児童生徒が十分理解できるよう，特に文言の表現に工夫を加えてきた。しかし，「情報」という用語を用いているものについては，「情報」そのもののとらえ方によって評定結果が異なってくるだろうと予想された。そこで「情報」のイメージが調査側の意図するものとどの程度食い違っているかを調べるため，「情報」に対するイメージ調査を行った。その結果，8～9割が調査側の意図するイメージでとらえていることが確認されたので，特に補説は付け加えないことにした。

図3は調査結果（中学生女子）の一例である。

質問H　あなたは「情報」が私たちの生活の中で重要な働きをしていると思いますか。
質問Ⅰ　あなたは他人の迷惑を考えて「情報」を利用したり伝えたりしていますか。

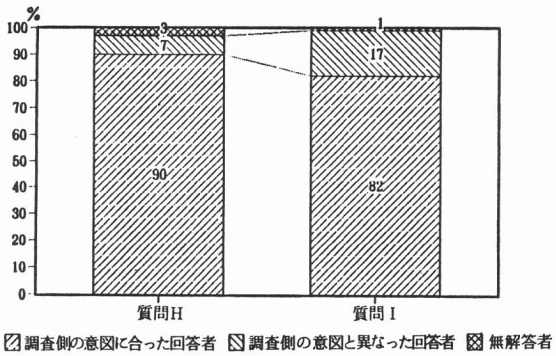

図3　「情報」のイメージ調査